

高性能林業機械による森林環境教育を行いました

令和2年10月15日

広島北部森林管理署

広島北部森林管理署では、令和元年度から広島県立庄原実業高等学校環境工学科で林業を学ぶ生徒に対し、専門教科を補完する分野に関する森林環境教育に取り組んでいます。

また、令和2年度からは、環境工学科の生徒が実際の林業機械や作業に接する機会が少ないことから、これまでの座学のほかに事業地見学をカリキュラムに加え、より効果的な森林環境教育を広島県森林組合連合会と連携して提供することとしました。

10月14日、当署管内の明現山国有林に高性能林業機械3台（グラップル、フォワーダー、バックホー）を搬入し、高性能林業機械の性能や操作の説明のほか、実際に造材、運搬などの作業を実演しました。

今回の森林環境教育に参加した環境工学科の生徒(10名)からは、「初めて、高性能林業機械について説明を聞くことができ、更に、林業や高性能林業機械に興味を持ちました。」などの感想を聞くことができました。また、先生からは「これまでビデオや写真で学習していましたが、実際に高性能林業機械を観て、更に生徒の理解が深化すると思います。」との感想が聞かれました。

広島北部森林管理署では、引き続き、広島県森林組合連合会と連携しつつ、将来の地域の森林・林業の担い手と期待される環境工学科で林業を学ぶ生徒たちを対象にした人材育成に取り組んでいきます。



高性能林業機械の説明を聞く生徒



高性能林業機械を観察する生徒



高性能林業機械の実演